

## 感染症情報 5月8日～14日

府下小児科200療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1557例(堺市	71例)
②溶連菌感染症	559例(堺市	30例)
③手足口病	260例(堺市	15例)
④咽頭結膜熱	157例(堺市	12例)
⑤おたふくかぜ	121例(堺市	7例)

府下インフルエンザ定点307医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 203例(堺市 15例)

が報告された。

前週がゴールデンウィークを含んでいたため、いずれも数の比較はしにくいですが、感染症報告数は26.8%増の3,007件であった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、溶連菌感染症、手足口病、咽頭結膜熱、おたふくかぜの順であった。

1位の感染性胃腸炎は府下で前週比22%増、堺市では前週比17%減であった。2位の溶連菌感染症は府下で前週比33%増、堺市で15%増であった。手足口病が府下で前週比19%増、堺市では前週10例→今回15例であった。咽頭結膜熱が府下では前週比50%増、堺市で前週7例→今回12例であった。2位から4位については今後増加が予想されている。

インフルエンザは府下では前週比37%減の203例が報告され、堺市では前週31例→今回15例に半減していた。報告定点あたりは前週1.0→今回0.7となり、非流行期に入ったとされた。

麻疹や風疹の報告はなかった。